

解答

一

- 問一 **E** 問二 I ウ II ア III オ IV イ
 問三 もの差異に気づき区別がつくことで、言葉は生まれるのだということ。
 問四 エ
 問五 ア
 問六 ウ
 問七 宮沢賢治にとっては、目にする雲はすべて違うものなので、差異をあらわす言葉を使ってそれぞれ表現されたということ。
 問八 ア ○ イ × ウ ○ エ ○

二

- 問一 塾に行っていると思っていたアユコが家にいたから。
 問二 ア
 問三 イ
 問四 エ
 問五 世界のいろんな町を走る列車のビデオを見ていたら、転校するりさも、これから自分が行く町のことを違う世界のこのように感じているのではないかと思ったから。
 問六 イ
 問七 ウ
 問八 ウ

三

- ① 敵視 ② 因果 ③ 飛散 ④ 運賃 ⑤ 筋
 ① ざぎょう ② ひかく ③ こうこう ④ ゆだ〔ねる〕 ⑤ す〔ませる〕

四

- ⑤
 ① 菜 ② 功名 ③ 筆 ④ 穴 ⑤ 船頭

解説

一

- 問三 筆者は、「区別がつく。そこに差異がある。だから言葉が生まれるのです。」「差異がわかることが言葉を生むみなもとであるわけです」と主張しています。
 問七 「宮沢賢治にとっては、目にする雲はすべて違う雲であって、それは一回性の命との出会いでもありました」とあり、宮沢賢治にとって雲はひとつひとつ差異があったため、それぞれが違った言葉で表現されたのだということがわかります。

二

- 問五 アユコは、世界のいろんな町を走る列車のビデオを見ているうちに「ぜんぜん知らない町に行くって、どんな気持ちなんだろう」と、りさのことを思っています。「りさは練習したみたいにしやべっていた」とあることから、りさがまだ自分が転校していく場所について知らず、自分とは違う世界のことと感じているんじゃないかと思いたったと考えられます。